

平成 29 年 10 月 1 日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 28 年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、平成 28 年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第 189 条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 28 年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

	氏 名	所属 ・ 役職
企業・団体	自動車業界	奥 和昭 トヨタカローラ福岡株式会社 人材開発部 採用・教育グループ グループ長
		西村 努 トヨタカローラ福岡株式会社 営業支援部 総合営業企画グループ グループ長
	業界団体	岸原 武志 一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部長
	校長経験者	井上 武之 篠栗町教育委員長
	卒業生	木下 泰秀 九州日野自動車株式会社 福岡支店 総務課 課長
	事務局 (学内)	椎葉 小夜子 理事 校長
矢ヶ部 友則 教 頭		
目原 宏輝 就職課・教務課 係長		
阿納 弘通 総務課 係長		
浅井 朋晃 広報課・教務課 主任		

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果（平成28年度版）

平成29年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目標</p> <p>○育成人材像と関連業界のニーズとのマッチング</p> <p>○理念等の達成に向け特色ある教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容が現場のニーズにマッチしているか、企業と連携して点検を行い、教育課程の改善を図っている。産学連携強化のための直接的・間接的な協力体制を構築することが課題。 企業や卒業生と交流機会を設けて業界のニーズをつかみ、人間力の育成に取り組んでいる。更なる育成強化のために卒業生の実態調査を行い、教育改善に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備士養成機関としての主目的を果たすことはもちろんのこと、整備士の仕事にやりがいを感じ、長く業界で活躍する人材の育成を期待する。 卒業生を教育の資源とするためにも、教育に有用となる実態調査がなされることを期待する。
<p>(2) 学校運営</p> <p>○運営環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の運営方針については、第14次中期経営計画（平成28年～30年）の中で具体的な戦略を策定。 平成28年度事業計画については、第14次中期経営計画に基づいて、学校全体、教務課、就職課、広報課、総務課、それぞれに平成28年度事業計画・目標（アクションプラン）を策定し学校運営にあたっている。 学校運営に必要な規程は整備している。 職務権限規定や校務分掌により、それぞれの役割と責任者の権限が明確にしている。 校務を円滑に遂行するための複数チェック体制を敷いているが、更なる強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務を複数体制で行うことは、危機管理においても重要である。
<p>(3) 教育活動</p> <p>(教育目標設定等)</p> <p>○教育課程の編成方針、実施方針</p> <p>○キャリア教育の評価・方針の策定</p> <p>(資格・免許の指導体制)</p> <p>○資格取得に対する体制構築</p> <p>○資格取得に対する支援体制</p> <p>○教育到達レベルの明確化</p>	<p>(目標設定等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育目標は、国土交通省の規定、業界ニーズに沿った人材育成を念頭に検討し、業界の要望や教育課程編成委員会の意見をカリキュラム等に反映させている。 インターンシップ受入企業の拡大を図ることができた。今後も産学連携を強化していくことが重要である。 キャリア教育の効果について、卒業生や就職先等へ意見聴取を行い、授業や生活指導改善に繋げている。 卒業生の追跡調査と分析に必要な情報量が未だ不十分。就職後の卒業生に対するフォロー体制が課題。 <p>(資格試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導体制については、責任者を定め、資格取得のための対策授業や補習授業を実施している。 二級自動車整備士資格については、全員取得に向け、レベル別クラスによる学習指導や、理解が進まない学生に対しては補習や個別指導を行っている。 二級自動車整備士試験の不合格者に対し、卒業後も学ぶ機会を設けるなど合格のための支援を行っている。 新たな資格の設置については、柔軟に対応している。 資格一覧表を作成し、重要な資格については受験を必須としている。受験料の負担軽減のための支援体制が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップを充実させるには、各社の教育内容を把握し、学生の声を聞くなど総合的に判断・評価することが重要である。企業側に積極的な情報提供を行い、双方で協議のうえ教育内容の改善を図るなど、更なる充実を望む。 卒業生を支援するシステムの構築が望まれる。 整備士養成校として二級自動車整備士の資格を取得させて卒業させるのが学校の使命。資格の意義をしっかりと学生に認識させ、全員が取得するように取り組んでほしい。 二級自動車整備士資格を取得できずに卒業した者に対して、学校側が十分な支援を行うことは大事である。本人のみならず、企業と学校の信頼関係につながることであるので、しっかり取り組んでもらいたい。
<p>(4) 学修成果</p> <p>○就職率の向上体制</p> <p>○卒業生の社会的評価の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率及び関係業界就職率に対する目標を100%に定めて取り組み、達成できている。担任と就職課員の連携による就職支援体制と企業との連携が機能していると言える。 卒業生の対応については、卒業生の就職先を定期的に訪問して、現場での評価を把握することに取り組んでいるが、早期離職に対する取り組みが遅れていることが課題。就職先アンケート調査を実施し、状況把握を行い、教育の改善に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業に正確な情報を伝えて学生理解を深めてもらい、就職後のキャリア育成にも連携して取り組むことは大事である。 卒業生の追跡調査については、有益な情報を得られるよう、アンケート調査項目は教育視点に立ったものが望まれる。
<p>(5) 学生支援</p> <p>○留学生に対する体制の整備</p> <p>○保護者との連携体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生の受入れ体制整備の遅滞が課題。体制を早急に構築する。 学生相談については、担任を中心に学生の諸状況の早期把握、保護者との連携強化により早期対応に努めて問題解決を図っている。学生の出席状況や成績を保護者に通知し情報の共有化に努めている。 学生の心疾患に対応するため、保護者や専門家との連携強化が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生を採用する企業は増加傾向にあり、優秀な人材であれば国籍にはとらわれない。日本語力の一定レベル（N2レベル以上）とコミュニケーション力を高める指導と教育は大事である。 学生のストレス耐性を高めることは重要。保護者との連携、学生への個別対応は十分に行ってもらいたい。

<p>(6) 教育環境</p> <hr/> <p>○学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップは、企業と連携して教育効果の確認を行い、学びを深めるためのインターンシップ後教育においても企業と合同で実施するなど、教育の向上を図った。企業と連携して、更にプログラムを充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ制度の充実を図る上で、企業との連携は重要であり、学習効果を高めるための更なる連携、教育プログラムの改善と教育の向上を望む。
<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <hr/> <p>○学生募集活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集の一環として、自動車整備士の仕事理解を深めるために企業の協力を得て、合同でオープンキャンパスを開催した。 ・ SNSを活用して学生や学校の様子等の情報を発信し、認知度を高める活動を行っているが、情報発信の頻度を高め、閲覧者が興味・関心を惹く内容の工夫が課題。 ・ 学納金については、募集要項に明確に記載している。 ・ 入学希望者の経済的支援を充実させることが課題。 ・ 志願者には更に適切な説明を行い、併せて入学時点だけでなく、入学後も学生や保護者の経済状況の変化に応じて納入方法についての便宜を図り、経済的困窮者の就学機会を損なわないよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業と連携し共同でオープンキャンパスを開催・推進していくことは、人材供給の観点から期待も大きい。 ・ 学生の経済的支援として、奨学制度の充実が必要。経済的な問題で学習機会が失われることのないよう配慮し、対応策を講じることは大事である。
<p>(8) 財務</p> <hr/> <p>○学校の財務基盤体制 ○予算・収支計画の適正性 ○会計監査 ○収支状況の公開体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄付行為及び理事会による決議 ・ 予算の執行は職務権限規程に基づいて行われ、毎月の予算実績対比表に基づき部室別・勘定科目別に収支予測を作成して予算管理を行っている。 ・ 会計監査については、学園監事の審議を経て学園理事会で承認を受けている。 ・ 収支状況の公開は学校関係者評価開催日以降に公開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健全経営が実行されており、財務基盤は安定している。
<p>(9) 法令等の遵守</p> <hr/> <p>○法令に基づく学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営については、責任者を定め、社会の信頼を得るべく、関係法令・設置基準等を遵守し学校運営にあたっている。 ・ コンプライアンスマニュアルを設置し、規範意識を高め遵守している。 ・ コンプライアンス窓口は、学内だけでなく、学外（弁護士事務所等）にも設置し、相談しやすい環境を整えている。 ・ 教職員に対してはWebサイトを使用しての「コンプライアンスセルフチェック」を実施し意識の醸成を図っている。併せて、差別等が発生しないようコンプライアンスに関する教職員教育を実施している。 ・ 学生に対しては、年度初めに規則や規定事項を記載した「学生便覧」を配布し、担任教員がホームルームで意識の醸成を図っている。特に新入生に対しては、入学式後のオリエンテーションで「学生便覧」を全ページに渡って解説し、学内ルール遵守を周知徹底させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守の取り組みは、企業でも徹底的に実施している。信頼の基礎はルールの厳守にある。教育現場においても、十分に指導してもらいたい。
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <hr/> <p>○社会貢献、地域貢献の実施 ○ボランティア活動の奨励と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校等からの講師派遣の要請には積極的に応じ、自動車整備業界の仕事を幅広く認知してもらう活動を行っている。 ・ 年2回の献血を行い、献血ボランティアを推進している。 ・ 募金活動や地域のイベント活動、災害支援などを奨励しているが、ボランティア活動を奨励する制度の構築が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や学校（小・中・高等学校）に情報を発信したり、交流を行ったりすることは、学校の認知度を高めることに繋がる。学校理解を深めてもらうための活動は積極的に行ったほうが良い。
<p>(11) 国際交流</p> <hr/> <p>○留学生の受け入れ・実施状況 ○国際交流の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語学校や海外の窓口機関と連携して留学生の受入を図っていくことは重要。早急に体制を整備することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 18歳人口減少による人材不足を補うためにも、留学生の受け入れ態勢の充実を望む。